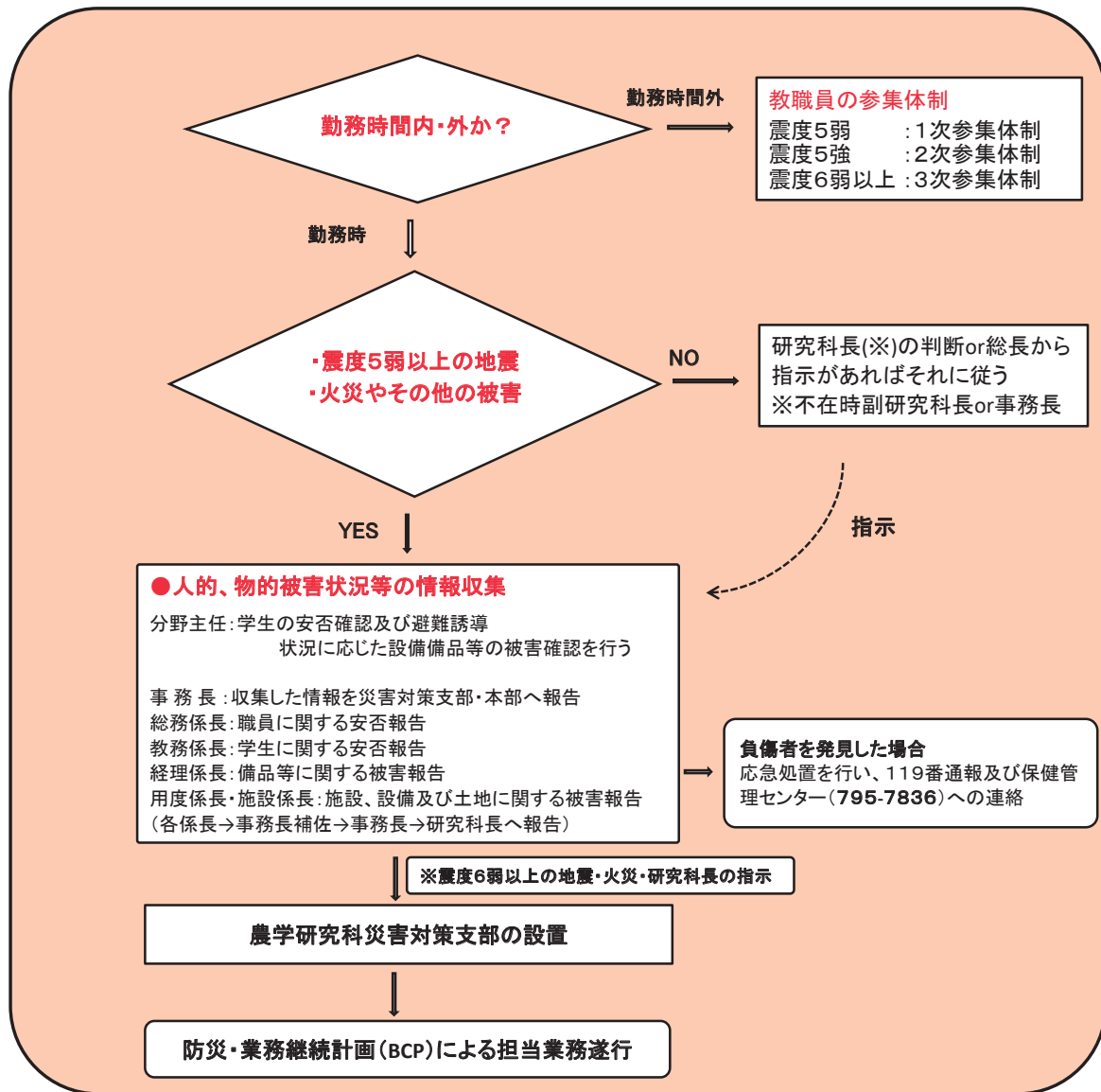


## 災害発生時における指揮・統括（事務・災害対策支部で対応）



### 教職員の参集体制

	1次参集体制 (震度5弱)	2次参集体制 (震度5強)	3次参集体制 (震度6弱以上)
1 研究科長		○	○
2 副研究科長		○	○
3 運営会議構成員		○	○
4 各施設長		○	○
5 分野主任		○	○
6 技術長		○	○
7 事務長	○	○	○
8 事務長補佐	○	○	○
9 各係係長・用度係員・施設係員	○	○	○
10 各係係員		○	○
11 技術職員			○
12 上記以外の教職員			○

※全教職員は、自身と家族等の安全を確認の上参集すること。

## 地震及び火災発生時に関するフロー図【初動対応】

### 地震

#### ①地震発生(強い揺れを感じたら)

- 机やテーブルの下に隠れる。壁や柱の近くに身を寄せる。
- 窓ガラス・外壁などが落下する危険性があるので、屋外に飛び出さない。
- エレベーター内にいる場合、最寄りの階に停止するので、停止した階から避難する。

#### ②揺れがおさまったら

- ドアを開けて非常脱出口を確保。
- 生命の危機を感じた場合は、直ちに避難を開始する。
- 火元の確認。火災が発生したら初期消火を行う。※初期火災の対応参照
- ガスの元栓を閉める。電気のスイッチ・ブレーカーを遮断する。危険薬品の安全措置をとる。
- 室員の安全を確認。負傷者が出たら応急処置を行う。

#### ③避難時・避難後の注意

- 避難場所はキャンパスモール(青葉山コモンズ西側スペース)
- エレベーターは使用しない。
- ガラスや看板などの落下物に注意し、ヘルメットなど頭部を防護するものを着用する。
- 傾いた建物・自動販売機・ブロック塀等倒壊の恐れがあるものには近づかない。
- いったん避難したら再び建物の中には入らない。
- 避難後分野主任等は、分野所属の教職員・学生の安否確認を行い情報収集班に報告する。
- 上記以外の教職員・学生は、避難場所で安否確認を受けること。
- 指示があるまで避難場所で待機する。

### 火災

#### ①火災発見時

- 「火事だーっ!」と大声で叫び、最寄りの教職員・警備員(内線:2229)に火災の状況などを知らせる。
- 火災報知器を使用する。
- 119番通報をする。

#### ②初期消火

- 消火器を用いて消火に当たる。
- 消火器が近くにない場合、座布団で火をたたくなど、手近なもので消火する。
- 隣接する部屋で助け合い、消火・救助に努める。
- 明らかに消火不可能な場合は避難  
※避難の目安: 出火から3分たっても消火できない・天井に火が燃え移る。

#### ③避難時の注意

- 各室を回り避難の指示、避難場所への誘導、被災者の救護。
- 延焼をおさえるために、窓やドア及び防火扉を閉める。※鍵はかけない!
- 階段は後ろ向きに這うようにして降りる。
- 濡らしたハンカチやタオルで鼻や口を覆い、煙を吸い込まないように、低い姿勢で避難する。
- 避難後分野主任等は、分野所属の教職員・学生の安否確認を行い情報収集班に報告する。
- 上記以外の教職員・学生は、避難場所で安否確認を受ける。
- 指示があるまで避難場所で待機する。

#### 【119番通報(例)】

- 「青葉区荒巻字青葉468-1東北大学農学部総合研究棟 5階建ての〇階から出火です」
- 「消火器による初期消火は行いましたが、消火不可能な状況です」
- 「やけどによる負傷者が〇名おります」
- 「私は東北大学農学部の〇〇です。電話番号は〇〇〇〇です」